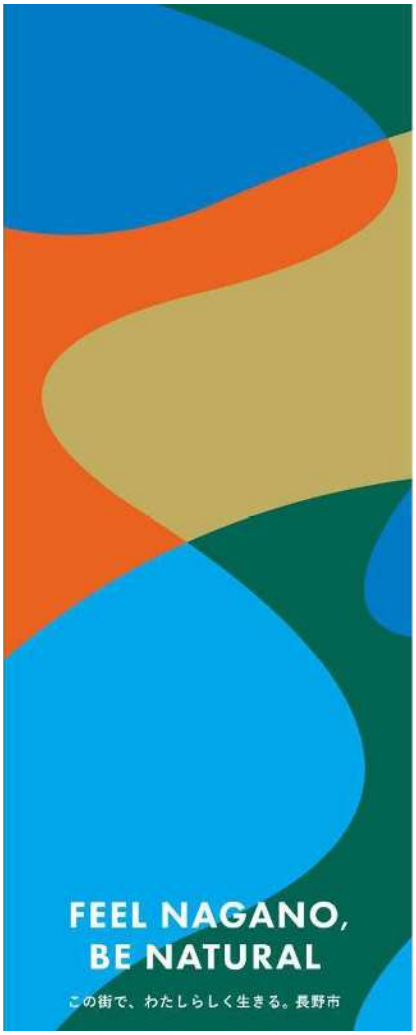


資料1

現在の取組と期待する姿

・グローバルな人材育成
・AX時代の論理的思考の育成

R8.10.13

第4回長野市立長野中学校・長野高等学校
改革検討委員会資料

グローバルな人材育成について

1 【中学校】 現在の取組

（1） 主な活動・行事 （翼プロジェクトの時間として実施）

＜中学1年＞ 善光寺ウォーク

・外国人留学生に善光寺を英語で案内する活動
・年2回（6月と10月）実施
・案内する外国人留学生は市内専門学校（平青学園）の留学生

＜中学2年＞ イングリッシュキャンプ

・1泊2日 外国の方と英語で過ごす活動
・1グループ（中学生5人、外国の方1名）で活動
・外国の方は旅行会社を通して東京の業者（トモノカイ）より派遣

＜中学3年＞ 国内語学研修

・3月上旬 1泊2日 場所は東京 活動は業者（トモノカイ）と連携
・R8年度より実施

開校当時は海外（台湾）であったがR4までコロナで中止
R5（5期生）シンガポール、費用高額、参加者少ない、補助金ない等の理由でR6以降は中止

（2） 特設科目「探究英語」（各学年、年間35時間 週1コマ）

・特設科目として標準授業時数より35時間多く英語学習に取り組んでいる
・（1）で示した活動・行事と関連させたコミュニケーションを重視した内容

2 【高校】 現在の取組

（1） 海外留学

・長野市姉妹都市クリアウォーターの高校生徒の相互短期留学
　R6　クリアウォーターより6名受入れ ※ R7はハリケーン襲来のため中止
　R8　クリアウォーターより6名受入れ、本校より5名留学予定
・「信州つばさプロジェクト」（長野県教育委員会企画）海外研修
　R6　台湾2名、韓国1名
　R7　韓国1名、ベトナム1名
・「アジア架け橋プロジェクト」（文部科学省補助事業）留学生受入れ
　R6　カンボジアより1名（9月～12月）
　R7　イタリアより　1名（　〃　）
　R8　フィリピンより 1名（　〃　）
・「トビタテ留学JAPAN」
　R6　ドイツ、スイス（1名、音楽学校に短期入学）

（2） 留学以外

・学校設定科目　外国語韓国朝鮮語の開講（R8 22名受講）
・長野韓国教学院より日韓交流事業韓国文化講座実施（R8 2回実施）
・カナダ在住日本に由来のある生徒（母親の実家が長野市内）1名受入（R6,7）
・中国石家庄市からの語学研修生の学校視察（R7）

3 期待する姿（今後考えられる取組）

（1） 中高のつながりを感じられるプログラム創出（高校翼プロジェクト）

・ 中学の翼プロジェクトとの連続性、発展性を感じられる活動を創る
　長野市の場所（観光名所）や人（留学生）を活かした活動
　より対話や交渉などを必要とする発展的な活動
・高1「産業社会と人間」 高2「課題探究」の内容の整理・再編

（2） 渡航・留学機会の拡充

・ 新 海外研修プログラムの実施（高校で実施）
・ 希望者による短期留学の機会（つながり、紹介先）を増やす

（3） 日常的な交流・学習機会の創出

・オンラインを活用した交流の実施・発展
　中学、台湾の学校との交流のさらなる充実（毎年10月に実施）
　高校、クリアウォーターとの交流のさらなる充実
・善光寺ウォークでかかわった留学生（市内在住）との交流
　本校に招いて一緒に活動を行うなど異文化理解の機会の充実

1 【中学校】 現在の取組

（1）「問い」をもち、他者と協働することで深める授業

・他者との対話を通して、クリティカル（批判的）検証力の育成
「私はこう思う/こうする、あなたは」を合言葉にした授業
個別に得た知識を他者と協働することで深める時間の確保

・目的・問いの言語化力（プロンプト思考）の育成
ICTやAIを活用し個別に問いを立て検証する十分な時間の確保
「何を解決したいのか」を明確にし、構造化して言葉にする習慣づくり

・「直感」を論理に変換する力の育成
自分の直感（感性や違和感）を他者やAIと検証しながら深掘りする活動

（2） 特設科目「探究基礎」（各学年、年間35時間 週1コマ）

・35時間中15時間ほどを使い情報活用能力の育成を目指した内容
・技術・家庭科「情報の技術」分野や他教科との関連を踏まえた内容
・情報モラル、情報リテラシーなど発達段階に応じた内容

2 【高校】 現在の取組

（1） DXハイスクール事業

・R6年よりの取組
・1年生「産業社会と人間」で実施
・講師は、信州大学工学部、教育学部、長野高専の教諭
・データサイエンスや3Dプリンターを利用してのモノづくり
・AIの成り立ちや使い方の講義

（2） 情報にかかわる授業

・「情報Ⅰ」 2年生で全員履修科目として実施
・「アプリケーション実習」2，3年生の選択授業で講座開設

3 期待する姿（今後考えられる取組）

（1）「問い」をもち、他者と協働することで深める授業のより一層の推進（中学）
他者への「質問力」を高め、その回答を評価・活用する能力の養成（高校）

（2） 特設科目「探究基礎」の内容整理（中学）

（3） AIに関わる講座の開設（高校）

（4） 外部教育機関との組織的な連携・協働の推進